

# 平成29年NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブルール研修会

2017.02.26

柏原市民プラザ会議室

## 1 主催者挨拶

特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ 理事長 藤 森 洋 幸  
特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ審判委員長 堀 川 俊 純  
特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ記録委員長 大 谷 和 之

## 2 講師紹介

特定非営利活動法人ふれ愛びっく大阪クラブ審判副委員長 松 野 宏 信

## 3 参加者自己紹介

## 4 研 修

① これだけは知っていて欲しいルールについてパートⅡ（抜粋）

休 憩

② 次のような時、審判員はどのようにすればよいか？

③ 質 疑

# 平成29年NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ研修会資料

NPO法人ふれ愛びっく大阪クラブ

## 1. これだけは知っていて欲しいルールについてパートⅡ（抜粋）

### 1. 打ち合わせ

#### (1) 守備側の打ち合わせ

投手との打ち合わせは、1イニング中 1人の投手対し 1回限りである。

#### (2) 攻撃側の打ち合わせ

打ち合わせは、1イニング中に 1回限りである。

打ち合わせを再度行うと守備側と攻撃側とでは異なるがそれぞれペナルティが科れる。

### 2. 投 球

#### (1) 投球動作について

投球動作は、投球のために投手板を踏み、捕手の合図（手ばたき、声等5秒以内）終了後に、本塁に向かって投球するため、動作を起こしたときに始まる。

#### (2) 牽制球について

投手の牽制球は、捕手の合図（手ばたき）開始から終了するまでに投手板から足を後方に外し、行わなければならない。

#### (3) 投手が合図を求めるとき

投手が本塁ベースの位置を再度捕手求める時は、投手板から足を後方に外し合図を聞く。

#### (4) ノーバウンドの投球

投球された球が、ノーバウンドで打者に触れた場合、投球が危険として審判員は、両チームの主将と当該投手に嚴重注意、再度行えば投手を退場させる。

### 3. 打 撃

#### (1) 全盲打者の打球について

① 全盲打者がバットを握った把握手部で球を打った時は、打球とみなす。

② 全盲打者は、1スイング中バットが球に何度当たっても打球とみなす。

#### (2) 打者走者が守備妨害でアウトになる場合

打球が弱視打者走者の身体や持っているバットにフェア地域、ファウル地域で触れたとき。全盲打者走者は故意の場合は守備妨害としてアウトになる。

故意でない場合は、フェア地域、ファウル地域であってもボールデッドでファウルボールとする。

### 4. 走 塁

#### (1) タッチアップについて

タッチアップとは、飛球が弱視野手に触れた直後、走者が進塁ためにスタートを

起こすことをいう。

ただし、全盲野手の場合は体内捕球後、走者が進塁するためにスタートを起こすことをいう。

## (2) ベースの移動について

走者が走塁ベースに触れた後、塁（ベース）が定位置から移動した場合その走者は元の走塁ベースの区画に戻らなければならない。

アピールがあればアウトなる。

## (3) 方向指示違反について

全盲野手に対する方向指示は、打球が放たれた瞬間に各野手がポジション名や選手名を云うことを認めるが連呼してはならない。

全盲野手が打球を確保した時にのみ方向指示違反が適用され、確保した地域によってペナルティがことなる。

## 5. 守 備

### (1) ノープレイライン付近の飛球を捕球するとき。

- ① 身体の一部がノープレイラインの内側にあり、それを越えようとする打球を野手が捕球したとき。
- ② ジャンプして捕球する場合は、着地時に身体の一部がノープレイライン内にあればよい。
- ③ 打球や送球を追っていったんノープレイライン外に出た野手が、再びノープレイライン内に戻りプレイすることは認められる。

### (2) 全盲野手の体内捕球

体内捕球とは、全盲野手が弱視野手に触れていない打球を捕球し地面から持ち上げることをいい、捕球時に倒れこんだときは確捕の状態、足が地面に戻れば正しい捕球とする。

ただし、確捕していても球がストップしていた場合は、ストップボールであり体内捕球は認められない。

## 2. 次のような時、審判員はどのようにすればよいか。

1. 全盲打者が、打者席から足を踏み出して打撃をした。
2. 全盲打者が、打ったバットに再度ボールが当たりフェア地域を転がった。
3. 走者二塁（弱視）三塁線へのフェアの打球が三塁手に当たり左中間に転がった三塁審は「タッチ」とコールし打球を見守っていた時「タッチ」のコールを聞いた二塁走者がタッチアップし進塁して本塁まで到達したが、この打球を左翼手が確捕し中堅手に「トス」し中堅手は二塁手に送球し二塁手は守備ベース上で捕球した。
4. 走者一塁（全盲）次打者の中堅への安打で二塁へ滑り込んだ時、走塁ベースを移動させそのまま移動したベースに立っていたが、中堅手から二塁手に送球され二塁手は二塁守備ベースで捕球した。

5. 三塁（全盲）への強い打球が打たれ、捕手が「サード」と声を掛けたが三塁手に当たり投手の方向へ転がったので左遊撃手が「ピッチャー」と声を掛け投手がこの打球を確保し左遊撃手に渡した。
6. 三遊間へのゴロの打球、左翼手（全盲）が捕球に来ていたので中堅手（弱視）は左翼手の横について一緒に移動し左翼手はこの打球を確保し中堅手に渡した。
7. 三遊間へのゴロの打球を中堅手（弱視）が左翼手（全盲）の方へ足で蹴り方向を変えこれを左翼手（全盲）が確保したので外野審は後ろからアウトのコールをした。
8. 中堅への飛球、中堅手の前に落ち中堅手はワンバウンドで捕球しようとしたが中堅手の手に触れそのまま外野のノープレイラインを出してしまった。
9. 三塁線へのファウルの打球がノープレイラインを越えようとしていたが、左翼手（全盲）が追いつき捕球した身体の大部分はノープレイラインから出ており両足は宙に浮いていたが着地したときは片足がノープレイライン上にあった。
10. 右翼への大きな飛球、右翼手はバックし外野のノープレイラインを出したが、捕球した時はノープレイラインに足が触れていた。
11. 一塁線へのファウルの小飛球を一塁手がノープレイラインぎりぎりまで捕球したが、その後勢い余ってノープレイラインを出してしまった。
12. 打者（全盲）一塁線へのフェアの打球を一塁手が、一塁の守備ベースを踏んだまま捕球をしたしかし片足は内野地域にあった。
13. 打者（全盲）の打球が投手に当たり内野地域に止まった審判はストップボールと「コール」した、これを聞いた二塁手がボールを持ち停止圏に入ったので審判は再び「停止」とコールした。
14. 走者（弱視）一塁、次打者（全盲）で投手が投球動作に入ったとき、突然球審がティレードッドボールのシグナル出した投球後、一塁手がファウル地域に出ていたとのこと、これに対する処置は。
15. 攻撃側チームから代打を告げられた、球審は打順表を確認せず（副審・記録席）相手チームに聞こえるように代打を告げた、しかしこの代打者は打順表に記載されていなかった。